

## 執 筆 要 領

### 1. 原稿の体裁および内容

- 1) 和文：原稿は、手書き，ワープロのいずれでもよい。手書きの場合は原稿用紙を使用し，黒色のペン字で楷書とする。ワープロを使用する場合には，A 4 版の用紙を使い，1 行40文字20行の体裁で仕上げる。
- 2) 英文：原稿はA 4 版の用紙を使い，ダブルスペースでタイプする。
- 3) なお，ワープロを使用した場合は，和文，英文とも，プリントアウトした原稿とともに，フロッピーディスク（表に筆頭著者の氏名・機種・ソフト名を明記のこと）を同時に提出すること。データの形式は，できるかぎりテキスト形式で提出する。
- 4) 原稿は，原則として刷り上がり 6 頁以内とする。和文の場合は文章のみで11000文字程度。
- 5) 文献の数は必要最小限にとどめる。
- 6) 原稿添付の図，表，写真の大きさは台紙を含めて40×30cm以内とする。

### 2. 表題等（第 1 ページに記載）

以下の例に従って，論文の表題，著者名，所属学科（機関）名称，受理年月日（実際の月日は編集委員会で採択後記入するので，空けておく）並びにキーワード，ランニングタイトル（ランニングヘッド）を記載する。著者が複数で，所属学科（機関）が異なる場合は，それぞれの所属を番号によって区別し，筆頭著者を 1 としてすべての著者に番号を付ける。

（例）

表 題：医学用語の構成についての研究  
氏 名：川崎理子<sup>1</sup>，松島久代<sup>2</sup>，山田花子<sup>2</sup>，松島太郎<sup>3</sup>  
所 属：<sup>1</sup>川崎医療短期大学 一般教養  
<sup>2</sup>川崎医療短期大学 医療秘書科  
<sup>3</sup>川崎医科大学 内科

受 理 年 月 日：（空けておく）

英文タイトル：A Review of Word-Building System for Medical Terminology

英 文 氏 名：Noriko KAWASAKI<sup>1</sup>，Hisayo MATSUSHIMA<sup>2</sup>，Hanako YAMADA<sup>2</sup> and Taro MATSUSHIMA<sup>3</sup>

英 文 所 属：<sup>1</sup>Department of General Education, Kawasaki College of Allied Health Professions

<sup>2</sup>Department of Medical Secretarial Studies, Kawasaki College of Allied Health Professions

<sup>3</sup>Department of Internal Medicine, Kawasaki Medical School

キ ー ワ ー ド：語幹，医学用語，接頭辞（5 語以内とする）

ランニングタイトル：医学用語の構成（ランニングタイトルは簡潔に；24字以内とする。）

### 3. 概要（第 2 ページに記載）

論文が和文の場合は和文で400字以内，英文の場合は英文で250語以内にまとめる。この概要は，本文と切り離しても内容が分かるように書くこと。

### 4. 本文（第 3 ページ以降）

- 1) 見出しは，以下のようにするを勧める。
  1. 緒言
  2. 研究方法（材料・方法）
  3. 結果
  4. 考察
  5. 謝辞（必要な場合に記す。また必要があれば，学会や研究会で口頭発表した実績などは，ここに入れる）
  6. 文献
- 2) 本文に節を設ける場合，(1)，(2)……をつけて節を示す。節の見出しは簡潔にする。
- 3) 本文は原則として常用漢字，新仮名遣いとする。外国人名や専門的な術語は，学会などで一般に用いられているものを使用し，原綴り又はカタカナ書きとする。
- 4) 略語を用いる場合は，初出のときに完全な用語と（ ）内に略語を書き，専門外の読者にも分かるようにする。
- 5) 度量衡の単位は以下のようにする
  - a) 重さ：kg，g，mg，μg，ng
  - b) 長さ：m，cm，mm，μm，nm
  - c) 容量：ℓ，dl，ml，μl

d) 濃度: g/ℓ, g/dℓ, mg/dℓ

6) 日本語原稿の数字は、原則としてアラビア数字を用いる。ただし、漢字と結合して名称を表すものは、漢字とする。

(例) 1つ, 2～3時間, 数十個, 一例

7) 文字の指定については、原稿に赤で次のように指示する。

a) 斜体 (イタリック体) 文字には、下に\_\_\_\_\_ (直線) をつける。

b) 太字体 (ゴシック体) 文字には、下に~~~~~ (波線) をつける。

## 5. 図, 表, 写真

1) 図・表は、そのまま印刷できる鮮明なものを1図1表ずつ別紙に作成し、提出する。

2) 図表の右上余白に、筆頭著者と図または表の番号を図1, 図2……, あるいは表1, 表2……のように記し、刷り上がりのサイズを指定する (原寸, 1/2, 1/4 など)。図, 表は本文とは別に、原稿の末尾に順番にまとめる。

3) 写真については、手札以上のサイズで鮮明なものであること、また、原稿用紙と同じ大ききで厚めの台紙に貼って提出する。カラー写真の場合は、刷り上がりの色調や費用について、事前に編集委員会に問い合わせをすることが望ましい。

4) 図, 表の本文への挿入箇所は、原稿本文の右欄外に、図または表の番号を鉛筆で書き込む。

## 6. 文献

1) 文献は本論文に関係あるものに限り、最小限にとどめる。引用文献については、本文中に引用番号を記載し、その番号順にならべる。

2) 記載は以下の例に従うこと

著者氏名 (全員を書く), 論文題目, 雑誌名 (類似の誌名のあるときは、発行地), 巻, 頁 (初めの頁～終りの頁), 西暦年号の順に書く。単行本の場合は著者氏名, 書名, 編集者氏名, 版, 発行地: 発行所名, 頁, 年次を記載する。欧文雑誌名の省略は原則として Index Medicus に従う。

(例)

雑誌

1) Ford LE, Huxley AF and Simmons RM: Tension transients during the rise of tetanic tension in frog muscle fibres, J. Physiol. 372: 595—609, 1986.

2) 松島次郎: 川崎医療短期大学におけるこれからの教育, 川崎医療短期大学紀要 7: 51—64, 1991.

単行本

1) Brock S and Krieger HP: The Basis of Clinical Neurology, 8th ed, Baltimore: Williams and Wilkins, pp. 53—85, 1963.

2) 小川耕三: 脳の解剖学, 東京: 南山堂, pp. 94—130, 1965.

3) 白居敏仁: 病理学的検査法, 「新しい毒性試験と安全性の評価」白須泰彦, 松岡 理編, 第2版, 東京: ソフトサイエンス社, pp. 231—280, 1978.

3) 引用文献の場合、本文中における文献引用は、次のように記載する。

例: 東村ら<sup>3)</sup>は……

……が指摘されている<sup>2,3)</sup>。また、北村ら<sup>4~6)</sup>によると……。

## 7. その他

論文が和文の場合、250語以内の英文の概要 (summary) を付けてもよい。